

7 コミュニティサイトで性犯罪被害

トラブル事例



安易な行動が深刻な被害を招く

ネット知り合った男性からアルバイト感覚で「お小遣いをおおうと考えた」さんとKさん。2人なら危ない目にも遭わないだろうと、コミュニティサイトに「今から援助してくれる人募集」と書き込んだ。早速1人の男性から返事があり、会うこと

になったが、待ち合わせ場所に現れた男性から「俺は〇〇組の者だ」「誰の了解を得てやっている」「罰金を払え」などと脅された末に、性犯罪の被害に遭ってしまった。

生徒の皆さんへ

- 見知らぬ人と気軽に会うことは非常に危険
- 重大な被害に遭ってから後悔しても遅い！

用語
ミニ
知識

【HN】ハンドルネーム(Handle Name)の略称。インターネット上で活動するときに用いられる別名で、ニックネームと同義。巨大掲示板などの匿名サイトでは、一般的にこのHNでやりとりが行われている。

子どもを守るため、不適切な書き込みは補導

インターネットの掲示板などを通じて、子どもが性犯罪の被害に遭う事件は後を絶ちません。そのため、全国の警察ではインターネット上でサイバーパトロールを実施しています。平成25年10月より、安易な書き込みから子どもたちが、性犯罪や売春組織による犯罪に巻き込まれるなどの被害拡大を防ぐため、書き込んだ子どもに捜査員が身分を告げずに接触し、その後、直接会って警察官であることを打ち明けて補導する「サイバー補導」を行っています。

保護者の予防対策

- ネットで知り合った人への対応方法を話し合う

見ず知らずの人と会わないのはもちろん、メールアドレスや電話番号、住所などの個人情報を書き教えない、知らない人からのメールには返信しないなど、身を守るための具体的な方法を子どもと話し合っておきましょう。

- “怪しい”サイトは見せない、使わせない

コミュニティサイトを隠れみのに、実際には出会い系として使用されるサイトが増えています。そうしたサイトでは、社会経験の少ない未成年者を騙したり、性犯罪が目的で書き込みを行う人がいることを子どもにも教えるとともに、フィッシングなどで利用を制限しましょう。

- ネット上の書き込みにも、責任が伴うことを教える

本名じゃないから大丈夫などと安易な気持ちで書き込んだものも、内容次第ではサイバー補導の対象に。書き込みには常に責任が伴うことを自覚させましょう。



博士からのひとこと

安易な書き込みから、重大な犯罪被害につながることもあるのじゃ。



ミニ
知識

【学校での利用指導】外部講師に依頼して生徒向け情報モラル講座を催したり、全校集会やホームルームなどで実際にあったネットトラブルについて紹介、情報関係の授業でセキュリティやネット(インターネットのエチケット)について指導するなど、スマホ・ケータイの安心・安全利用に関する独自の取組を行っている学校も多い。